

# 八王子、市民の生活はどう変わったか？

— 陣内やすこの4年間の活動ピックアップ —



**川口**：物流基地構想が動き始める。本当に必要なものかどうか疑問。みどりを守ることが優先と考える。物流基地整備は何のため、誰のため。

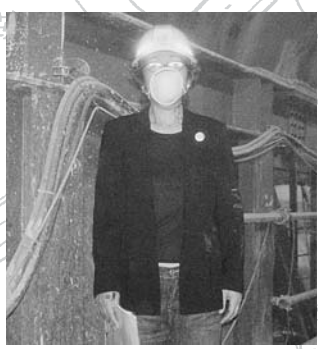
**榎原**：斎場建設に取りかかる。建設は公社が行うが、運営は？公社の株式会社化は資金の流れがより不透明になるので反対。

**滝山**：道の駅が3月オープンだが、管理運営企業は指定管理者にふさわしくない。環境配慮に欠けている。エコアクションプランが泣いている。女性農業者のお店応援。ひよどり山有料道路無料化（6億円の支出）は優先課題だったのか？

**林業**：八王子材の利用が少しずつ始まる。まだ試行段階。

**美術館**：オープン3年目。少しずつ、環境整備（案内板など）がされてきた。まちなかの美術館、文化の発信拠点として、更なる充実を。

**八王子城跡**：滝涸れ問題未解決。今後も国交省や文化庁に市民・議会・行政一体となって働きかけていく。



**小比企**：援農支援の仕組みができて始める。学校給食での地場野菜の利用はまだまだ。八王子の農業産出額約26億円 多摩地域 1位

**JR八王子駅南口再開発事業組合の結成**。総額約350億円。市の支出は112億円だが、支出目的が精査されていない。市民理解が得られているとは思えない。

**片倉**：エレベーター、エスカレーター設置。南バイパス、どうなる？ 環境対策は？

**北野台**：児童の通学路の安全確保、農業散布に対して注意喚起。

**由木**：由木中央小学校、このままではパンクする。児童数の増加にどう対処するか。

**松木**：年末年始のテニスコートの利用可能となった。まだまだ通学路の危険箇所が多い。人の目による対応が必要。

**高尾山**：圏央道高尾トンネルは八王子城跡トンネルと同じ工法なので滝涸れが心配！ 高尾トンネルはいらない。

**みなみ野**：紆余曲折あったが、新設小学校オープン予定。駅前交番がやっとできた。みなみ野小学校のじゅうたん敷き詰めの見直し実現。児童の健康に配慮の取り組みができた。

**南大沢**：町田市の廃プラ処理施設建設中止へ。子ども家庭支援センターが設置された。（市内5箇所のうちのひとつ）。耐震偽造問題で、住民側の粘り強い働きかけで公共の責任が問われている。

**大塚**：大学棟建設で住民の日照が侵害される。→住民の粘り強い働きかけサポート。多摩ニュータウン、八王子ニュータウン地区は高層建築と住民の日照権、景観権がぶつかっている。どんなまちづくりを目指すのか、行政の指導強化が求められる。

## 2006年第4回定例議会報告（一般質問より）

## 学校の安全・安心は守られているか？

〈学校の安心・安全について〉

**陣内**：今回は教育・子どもの問題が多く取り上げられている。子どものいじめ自殺については、鹿川くんの自殺から20年、なにが解決されてきたのだろうか。今年、国連で「障害者権利条約」が委員会採択され、分離教育から統合教育へと転換していくことが確認された。学校通学路の不安箇所について、どのように把握し、市としてやらなければならないことは何か。

**学校教育部長**：通学路は地域の生活道路でもあることから、さまざまな情報が寄せられ、公園・道路の樹木伐採や街路灯の設置、学校等への情報提供、パトロールなどを実施

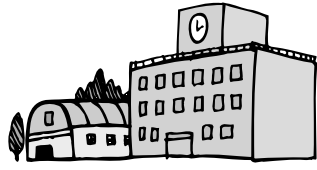
している。

**陣内**：由木中央小学校の児童数増加に伴うパンク状態の対応として、増築ではなく通学区域の変更や、分校建設という方法もあるのではないかと。

**学校教育部長**：通学区域は何校かにまたがっているため、こういうことも含めて今後対応する。地域、PTAの皆様の中に入っていき、よりよい環境をつくるような形で対応していきたい。

〈特別支援教育について〉

**陣内**：地域や学校での理解は広



がったか。

**教育指導担当参事**：コーディネーター研修会などを実施。また地域や保護者に対しても少しずつ広がってきている。2月に報告会を行う。

**陣内**：適正就学と統合教育は矛盾するのではないかと。

**教育指導担当参事**：特別支援教育の巡回相談は保護者同意のもとで実施。また、就学相談も保護者の申し込みによって実施している。障がいの有無にかかわらず、個に応じた適切な教育方法と教育の場を提供するために行っている。対象の児童・生徒および保護者のニーズに即した支

援が行えるよう、保護者と連携を図り、安易に別室指導などを行うことなく、人的なサポート体制を整えていく。

〈学校選択性、教育の専門性、今までの蓄積について〉

**陣内**：小学校の学校選択は本当に必要か。弊害のほうが多いのではないかと。また、いままでの普通学級での障がい児教育の実践の成果をどう評価し、共有化するかと。

**教育長**：学校選択性は学校教育の質の向上につながっている。特別支援教育にはある程度の専門性を有していることが有効な指導につながる。そういった人々を配置し、個の実態に応じた教育活動を推進する。さらに成果の共有化は重要。学校の理解向上を図っていく。